

全ては子どもたちのために

壁面に掲示してご活用ください

共に歩まん

令和3年10月27日発行

第15号



長野県中信教育事務所

←過去の「共に歩まん」はこちら

シリーズ「指導と評価の一体化」～ 図画工作編「思考・判断・表現」～

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」文部科学省 国立教育政策研究所（P63～）より一部修正

出来上がった作品だけで評価してもいいのですか？



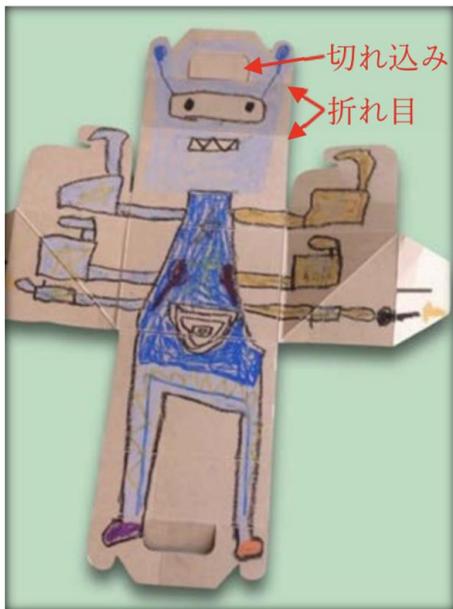
出来上がった作品からの評価と活動の過程での評価等とを照らし合わせることで、評価の妥当性や信頼性を高めていきましょう。

題材名：「ひらいたはこから」

内容のまとめ：第1学年及び第2学年「絵や立体、工作」

※ 3観点の中でも「思考・判断・表現（発想や構想）」に重点を置いて観点別学習状況評価を行った例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付いている。 カラーペンやクレヨン、パスなどに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 形や色などを基に、自分のイメージをもち、開いた箱を見て想像したことから表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> つくりだす喜びを味わい楽しく開いた箱を見て想像したことを絵に表す学習活動に取り組もうとしている。



【観察】

Aさんは、紙をいろいろな向きにゆっくりと回し、紙を左の写真の向きにしたときに「上のところが頭みたいだ。」とつぶやいた。そして、頭の部分から胴体まで一気にかいた。

【観察、対話】

「面白いね。この先はどうなるかな。」と問いかけると、「横のところは上がぼこっとなっていて、下がでっかくなってるんだよな。」とつぶやき、少し考えてから、上から順に手をかいた。一番下の手をかく際には、「下は広いから、手がぐーんと伸びるんだよ。」と楽しそうな表情でかいた。

【作品から読み取る】

捉えた子どもの姿に照らして作品を見ると、上の手では紙の形に合わせ、下の手では紙の広さを生かしてかいている。一方、形に合わせて頭の部分にアンテナのようなかき込みをしたり、箱の切れ込みの部分の額に収めたり、目の部分が紙の折れ目で挟まれた部分の中央にくるようにしたりするなど、形や広さを意識してどのように表すかについて考えていることが分かる。

完成した作品を見直すことで、観察や対話などで捉えたことを確かめたり、表現の変化や、そこで育まれている資質・能力（思考力、判断力、表現力等）を把握したりすることができます。

観察や対話など活動の過程の姿を記録する座席表、活動の途中の段階や特徴的な様子などを記録することができるデジタルカメラ、活動の終末で振り返りを書く学習カード等、作品からの評価と合わせて、様々な評価方法の工夫ができそうだね。

